



脳梗塞と時間の話②

脳卒中診療部部长
新井 陽



前回は脳梗塞の「発症時刻」を知ることが治療方針を決めるために重要であるというお話をさせていただきました。

今回は実際の脳梗塞で病院に受診して治療が始まるまでの時間についてお話しします。

前回もお話したように詰まった脳の血管の血流を再開させる治療には経静脈的血栓溶解療法と血栓回収療法があります。

今回は経静脈的血栓溶解療法についてお話を進めさせていただくこととします。点滴で治療が速やかに開始できる経静脈的血栓溶解療法は発症から4時間半以内に治療を開始する必要があります。その一方で4時間半を超えた場合はやってはいけない(禁忌)とされています。

さて脳梗塞が疑われる症状で病院に受診した場合に、直ちに経静脈的血栓溶解療法が開始されるかといえばそうではありません。脳卒中のなかには脳梗塞以外にも脳の血管が破れる脳出血もあります。経静脈的血栓溶解療法の重篤な副作用として脳出血があるわけですから、脳出血の人にはやってはいけない治療です。実は意識障害や麻痺などの脳卒中の症状だけでは脳梗塞か脳出血かを見分けることはできないため、画像検査を行わずに治療方針を決めることはできません。そこで病院に運ばれた脳卒中の患者さんは、すみやかに頭部CTや頭部MRIといった画像検査を受けることになります。

診察や画像検査で脳梗塞という診断になっても、経静脈的血栓溶解療法を行うにあたってはさらに診察や採血などの検査を行い、患者さんが出血しやすい状態、薬の副作用・合併症が出やすい状態ではないということを確認する必要があります。特に採血検査は必要な結果がでるまでには40分程度はかかります。

このような様々な条件・検査を乗り越えて、経静脈的血栓溶解療法が可能であると判断された場合に、患者さんやご家族などに治療法の説明があり、同意のもとで治療が開始されます。この治療はうまくいけば大きな効果が期待できる一方で、重篤な副作用も起きる可能性がある治療のため、原則として患者さん側からの同意をとることが必要な治療法です。

このように、脳梗塞が疑われ病院に受診しても治療を開始するまでに、診察・検査・説明・同意などで少なくとも1時間程度の時間はかかることになります。

ここでもう一度確認しますが、経静脈的血栓溶解療法は脳梗塞が「発症」してから4時間半を超えた場合はやってはいけない治療でした。病院を受診しても治療が可能かどうかの判断をするまでどうしても1時間程度は必要になりますので、治療開始まで残される時間は3時間半ということになります。この3時間半の中には、脳梗塞を発症してから病院に受診するまでの時間も含まれます。仮にその時間が30分だとした場合、治療開始まで残された時間は3時間ということになります。実は今でも、脳梗塞の症状が出て「様子を見ていたけど、よくならなかつたから」と言って受診する人は少なくありません。その「様子を見ている時間」は刻一刻と脳梗塞が悪くなっている時間というだけではなく、経静脈的血栓溶解療法の制限時間を告げるタイマーが進んでいる時間でもあります。もし発症4時間で病院に受診しても、4時間半以内の治療は受けられないでしょう。

脳梗塞が発症したら、できるだけ早く病院に受診することがより良い治療を受けるためには重要になります。

新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください！



患者さんへのお願い



体温



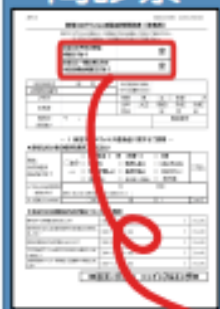
測定をお願いします

診療科へ行く前に
タブレットで体温
を測ってください。👉
(付添いの方もお願いします)

体温測定台



問診票



※体温を問診票に記載し、黄色いファイルに入れて受診する診療科へお持ちください。
(**37.5℃以上**の場合は、スタッフへお声がけください。)

拡大図

あなたの今日の熱は何度ですか？	度
あなたと一緒に来た方の今日の熱は何度ですか？	度

◎ご自身で測定できない場合は各診療科受付で検温します。熱っぽいなど症状がある場合はスタッフまでお声がけください。

👉 体温測定台はこちらにあります 👉

【2階】



【1階】



診療放射線技師のお仕事紹介

診療放射線技師

泊 公之

X線CT認定技師
I V R 専門技師



○ 診療放射線技師のお仕事って？

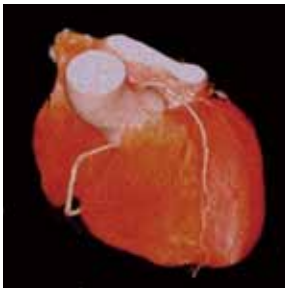
診療放射線技師の仕事で、一番にイメージされるのはエックス線撮影(レントゲン撮影)だと思います。実は、エックス線撮影以外にも様々な業務に携わっております。例えば、CT、血管撮影、MRI、マンモグラフィ、核医学、放射線治療などです。この様々な検査や治療の中で、診療放射線技師は医師の指示のもと検査や治療を行い、診断に有用な画像提供を行っております。また、患者様の被ばく線量の管理や装置本体の線量管理も行っております。今回は、CT検査と血管撮影検査についてお話していきます。

○ CT(Computed Tomography) 検査とは

CT検査とは、X線装置が回転しながらエックス線を人体にあてて身体の断面(輪切り)を撮影する検査です。このCT検査により、エックス線写真では見つけにくい、身体の中の様々な病気を見つけることができます。また、病気がより分かりやすいように3D構築(図1. 2)を行うこともできます。診療放射線技師はCT撮影から画像処理までを行い医師に画像を提供します。提供されたCT画像は手術計画や、病気の観察にも使われており、重要な役割を担っています。

図1 心臓の3D画像

図2 大腿骨の3D画像



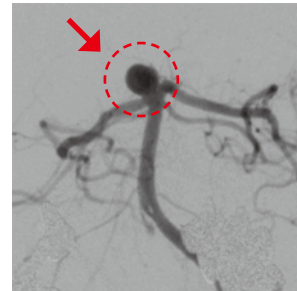
手術前

手術後

○ 血管撮影検査とは

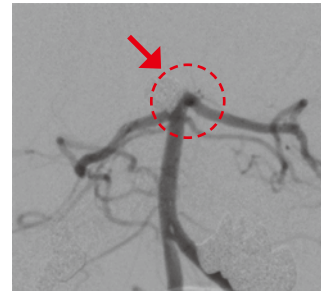
血管撮影検査とは、手首や足(太ももの付け根)の血管から細い管(カテーテル)を挿入し、X線透視画像を見ながら目的の血管まで進め、検査や治

療を行います。様々な病気の検査や治療を対象とし、目的とする血管も頭から足先まで全身を対象としています。診療放射線技師は、医師が目的の血管までカテーテルを進めやすい角度の設定や、造影剤の準備、撮影の補助などを行います。また他職種と連携しチームで患者様を支えています。



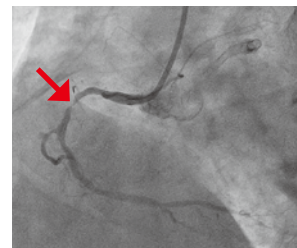
○脳動脈瘤治療前

→部分に動脈瘤がある



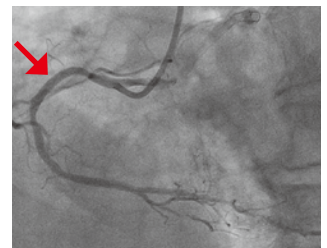
○脳動脈瘤治療後

→動脈瘤が消失している



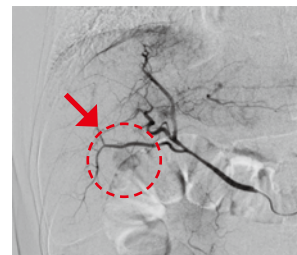
○心臓カテーテル治療前

→部分が狭くなっている



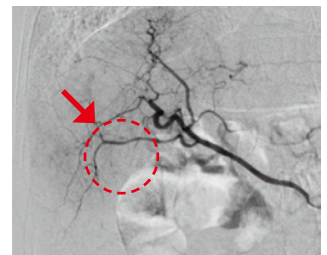
○心臓カテーテル治療後

→部分が広がっている



○肝臓がん治療前

→部分に濃染(癌)がある



○肝臓がん治療後

→部分に濃染(癌)が消失

放射線は目に見えないものであり、恐怖を覚える方も多いと思います。しかし、しっかりと管理し活用することで安全でより良い医療につながります。当院診療放射線技師はこれからも患者様のために知識・技術を身につけ努力してまいります。